



ロービジョンフットサル競技規則

2024年

INTERNATIONAL BLIND SPORTS FEDERATION
PARTIALLY SIGHTED FUTSAL
LAWS OF THE GAME
2024

NPO法人日本ブラインドサッカー協会 審判部
2024年4月

文章表現に疑義が生じた場合は、英語版のロービジョンフットサル競技規則に基づくものとする。

2017-21からの改正部分は野線 | および下線で表示する。

ロービジョンフットサル競技規則

ロービジョンフットサルの競技規則は、大会開催時のFIFAフットサル競技規則と、以下のIBSAによる規則を合わせたものが適用される。

ピッチ

1. 試合の進行や競技者の動きに影響したり制限したりするような、ピッチで発生する太陽光や人工光の反射は避けるべきである。
2. 光の強さはピッチの全面で試合を通じて一定でなければならない。光の強さの変化はすべての状況で禁止されている。

ボール

3. このカテゴリーにおいて使用されるボールの色は、ピッチやラインと明確に違う色とする。ボールはフットサル競技規則第2条に適合するものとする。

競技者の数とクラス分類

4. チームは最大12人の競技者をチームリストに記載することができる。これらの12人は10人のフィールドプレーヤーと2人のゴールキーパーとに分けられる。一大会を通じてチームは最大15人の競技者を登録することができる。
5. 試合中、それぞれのチームは3人以上のB3競技者をピッチ内に入れることはできない。
6. B2クラス、B3クラスの競技者数を決める際に、ゴールキーパーの分類は考慮に入れない。
7. B3クラスの競技者は右腕に腕章を装着する。この腕章の色はシャツの色と異ならなければならない。両チームのキャプテンマーク（装着される場合には左腕でなければならない）とも異なる色でなければならない。
8. 各大会において、各チームは3人以上のB2競技者を帯同させることが推奨される。大会の開始時には最低2人のB2競技者がいなくてはならない。
9. 視力カテゴリー毎に試合参加できる最大競技者数に関する規則違反を犯したB3クラスの競技者には、以下の手順で懲戒罰が与えられる。
 - 相手チームにアドバンテージを適用できなければ、プレーは停止される。
 - 違反を犯した競技者に警告が与えられる。
 - 違反を犯した競技者はピッチから出ることを命じられる。
 - プレーを停止したときにボールがあった位置から、相手チームの間接フリーキックでプレーは再開される。

ゴールキーパーのプレー

10. ゴールキーパーが、意図的にペナルティーエリアを離れて、ペナルティーエリアの外でプレーまたは相手競技者に干渉し、決定的な得点機会を阻止した場合は退場が命じられる。その他の場合は少なくとも反スポーツ的行為で警告される。主審・第2審判は相手チームに、

ロービジョンフットサル競技規則 3

ゴールキーパーがボールに触れるかプレーした場所または相手競技者に干渉した場所からの直接フリーキックを与える。これは累積ファウルである。この例外は、以下の14条で示す。

11. ボールがインプレー中やフリーキックからゴールキーパーが意図的にけったボールが、自陣のハーフのピッチ面や他の競技者に触れられることなく、ハーフウェーラインを越えた場合、相手チームにアドバンテージを適用できなければ、相手チームにハーフウェーライン上の任意の地点から行われる間接フリーキックが与えられる。
ゴールキーパーは、自陣のペナルティーエリア内からのフリーキックをけてもよい。
いかなる場合も、晴眼のゴールキーパーによる得点は認められない。
勝者を決めるためのPK戦も同様とする。
12. ボールがインプレー中、またはゴールクリアランスで、ゴールキーパーが意図的に投げたボールが、自陣のハーフのピッチ面や他の競技者に触れられることなく、ハーフウェーラインを越えた場合、相手チームにアドバンテージを適用できなければ、相手チームにハーフウェーライン上の任意の地点から行われる間接フリーキックが与えられる。
13. 負傷した競技者がゴールキーパーであり、当該チームに晴眼のゴールキーパーの交代要員がいない場合、治療のためにピッチから退出させる例外が適用される。

パワープレー

14. パワープレーの状況について。以下の状況でのみ、晴眼のゴールキーパーをB2/B3の競技者と交代することが認められる。
 - 14.1 1点以上得点が少ないチームにのみ、この交代が許される。
 - 14.2 この交代はゴールキーパーが退き、B2/B3の競技者がゴールキーパーとして入場する。
 - 14.3 交代はフットサルの競技規則に基づき、ビブスを交換して交代ゾーンで行われる。試合の停止中に行う必要はない。
 - 14.4 パワープレーの状況でゴールキーパーとしてピッチに入る競技者は、フットサル競技規則第3条および第4条に定める用具を装着しなければならない。いかなる場合もビブスでの入場は認められない。B3の競技者はゴールキーパーシャツの上に適切な腕章を着用しなければならない。
 - 14.5 この交代中、ゴールキーパーは特別に競技者としてピッチ上のどこでもプレーすることができ、フットサル競技規則が適用される。この場合に限りゴールキーパーは得点することができる。
 - 14.6 チームがパワープレーの結果、同点となった場合は、ゴールキーパーに関しては、自動的に従来の競技規則に戻る。B2/B3のゴールキーパーが交代している場合も同様である。

解説：パワープレーの状況において、B2またはB3の競技者がゴールキーパーとしてプレーすることが認められる。いずれの場合も、5人の弱視の競技者が、4人の弱視の競技者と1人の晴眼のゴールキーパーと対戦することになる。パワープレーの状況においては、ゴールキーパーは弱視なので、上記の第10条、第11条、第12条および第13条は適用されない。